

目的. 腰部展開については、第34回総会で人台のモアレ写真から得られた3次元座標をもとに、接平面包絡面を基準としたねじれのない外接多面体群を作成するいくつかの手法を紹介し、その展開パターンについて報告した。

今回は生体について同様の外接多面体群を作成し、人台の展開パターンとの比較を行った。

方法. 人台についてはモアレ写真より生成した胴部モデルから、また生体についてはスライディングゲージ法により、ウエストラインから下へ2cm間隔で横断体型を作成した。接平面包絡面を基準とした外接多面体群の生成法は、外接線の交角を一定にした近似展開法を用い、得られた多面体群から三角法により展開図の作成を行った。

結果. 人台と生体の展開パターンについて、交角、および横断面の間隔の変化による比較を行ったところ、両者の間に大きな差はないが、それぞれの特徴が明らかになっており、この展開法が生体についても十分有効であることがわかった。